

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Transfus Clin Biol 2006; 13: 320-328	70533に同じ
												鳥インフルエン ザ	Transfusion 2007; 47: 452-459	70533に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Curr Opin Hematol 2007; 14: 210-214	70533に同じ
												HIV	FDA/CBER 2007年 5月23日	70533に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	FDA/CBER 2007年 5月30日	70533に同じ
537	2007/09/21	70537	ベネシス	①②ポリエチレングリコール処理人免疫 グロブリン ③人免疫グロブリン	人免疫グロ ブリンG	人血液	①日本 ②③米国	有効成分	有	有	無	HIV	Vox Sanguinis 2007; 92: 113-120	20例の血友病患者が、1990年初頭以降、韓国で製造され た血液凝固第Ⅸ因子の投与を受けてから1～2年後に HIV-1に感染していると診断された。血友ドナーと血友病 患者で検出されたウイルス間の遺伝子関連性を調べた 結果、両者とも、HIV-1サブタイプBの韓国subcladeに感染 していた。韓国で売血ドナーの血液から製造された凝固 因子により、少なくとも20例の血友病患者がHIV-1サブタ イプBに感染したことが明らかとなった。
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	J R Soc Interface doi:10.1098/rsif.200 7.0216 Published online	血液由来のVJDの流行の大きさを探るために感度分析 を行い、公衆衛生的介入の有効性について調査した。数 学的モデルを開発し、非持続的モデルを仮定で評価する と、自己持続的流行が起こるならば2080年までに900例 以上、非持続的仮定では250例以内となった。大規模な又 は自己持続性流行に至るシナリオの可能性はあるが実 現性は低く、輸血を受けたヒトからのドネーション禁止措 置等の公衆衛生的介入が有効である。